

2019 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	鹿毛 美香	職名	助教	学位	修士(医科学)(久留米大学2008.3月)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学 公衆衛生学 公衆衛生看護学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積 大学生の健康 現任教育 住民の健康 保健行動

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者の雇用不安やワークストレスを中心に労働と健康の関連について考察する。</li> <li>・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する。</li> <li>・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する。</li> </ul>

担当授業科目
生活援助技術論(前期;看護学科), 基礎看護学実習Ⅰ(後期;看護学科), 基礎看護学実習Ⅱ(前期;看護学科), 公衆衛生看護学方法論Ⅰ(前期;看護学科), 疫学(前期;看護学科), 在宅看護学演習(前期;看護学科), 在宅看護学実習(前期・後期;看護学科), 公衆衛生看護学技術演習(前期;看護学科), 地区活動論演習(前期;看護学科), 公衆衛生看護学実習(前期・後期;看護学科),

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【生活援助技術論(演習)】 1. 演習では、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。 2. 看護技術の習得の際には、テクニックだけでなく、その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた。また、実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう、看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた。 4. 学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう、また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう、ワークシートとは別に患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。 2. 実習前に学生の講義・演習内容を確認し、学生の準備状況を理解するよう努め、実習時は、基礎看護学実習Ⅰで獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ、患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。 3. 患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように、基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし、学生のアセスメントの視点を広げ、学習効果を上げるよう努めた。

授業科目名【 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（産業保健・看護） 】

1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。例えば、校内の職場巡視を実施し、3 管理の視点で改善提案書を記録するなど。

授業科目名【 疫学 】

1. 保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた。協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。
3. 授業資料の1 枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。
4. 今年度より、保健師課程以外の学生も受講できるようになったため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。

授業科目名【 在宅看護学演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し、ペーパーペイシエントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた。演習の際は、何に向かって学習していくのか、目的・目標を学生に適宜に明示し、学生が学習の方向性を見失わないように努めた。
3. 在宅看護の現場では、治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない。そのため、療養者の全体像をとらえるために、どのような患者情報が必要なのか、学生自身が疑問に思い、知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために、カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた。その情報の必要性を明確にさせ思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し、個別の学習状況に応じた支援に努めた。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
2. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
4. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいうようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。

授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。

- 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
- 健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。

授業科目名【 地区活動論演習 】

- 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
- 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
- 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるように演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

- 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
- 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
- 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場면을再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
- 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
- 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【 その他 】

- 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008年11月～） 倫理審査委員（2018年1月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006年4月～）	2003年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008年4月～現在に至る
日本産業保健師会		2013年1月～現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特になし				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(学術論文) 九州・沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識とその活動の現状 第一報－公益社団法人日本産業衛生学会会員に対する調査－</p>	共	2020. 3	西南女学院大学紀要	<p>①産業看護職に対する研修システムの構築に向けて自己研鑽に対する意識とその活動の現状を明らかにすることを目的とした. (公社) 日本産業衛生学会九州地方会員の産業看護職 (122 名, 回収数 59 名, 回答率 48. 4%) に対し無記名自記式郵送法にて質問紙調査を行った. 産業看護職の自己研鑽を妨げている要因として, 雇用形態, 一人職場, 上司が事務職であること体系的教育体制の未整備があると考えられた.</p> <p>②鹿毛美香, 伊藤直子 ③pp23-33</p>
<p>慢性疾患をもつ高齢者の退院調整にかかわる職種が感じる困難感</p>	共	2020. 3	西南女学院大学紀要	<p>①退院調整関わる職種がもつ退院調整の困難感について明らかにすることを目的とし, 病院で退院調整を担当する専門職, 介護支援専門員, 訪問看護師を対象に聞き取り調査を行った. 三職種に共通する困難感は, 「病院側と在宅側との情報共有の不足」「退院までの調整期間の短さ」であった. また, それぞれの活動の場において特有の困難感もみられた.</p> <p>②水原美地, 石井美紀代, 鹿毛美香, ③pp35-45</p>
<p>(翻訳) 特になし</p>				

2019年度 研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 九州沖縄の産業看護職の自己研鑽に対する意識と活動現状－2015・2019年調査を踏まえて－	共	2019. 10	第78回日本公衆衛生学会総会(高知)	①産業看護職の保健活動の質向上への支援システムの構築にむけて, 2015年および2019年に基礎調査を日本産業衛生学会九州地方会産業看護職に対し, 無記名自記式郵送法にて実施した. 2015・2019年調査結果は同様の傾向を示した. 産業看護職は, 自己研鑽を積んでいると同時に, ワークライフバランスの観点から研鑽機会をうまく活用できない現状も見受けられた. ②鹿毛美香, 伊藤直子 ③第78回日本公衆衛生学会総会抄録集 p536

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者( )内は学外者	交付決定額 (単位:円)
九州における産業看護職が担う保健活動の質向上のための支援の在り方	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○鹿毛美香, 伊藤直子 (住徳松子) (日笠理恵)	126,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
◎ (公社) 日本産業衛生学会 ・ 学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員	2018年1月～現在に至る
◎ (公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・ 九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・ 産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006年4月～現在に至る
◎福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・ 母性看護学、小児看護学（各社会保障含む）について講義する。	講師	2017年1月～現在に至る 2019年度： インドネシア現地 2020.1/8～17

学 内 に お け る 活 動 等 (役職, 委員, 学生支援など)

・ 実習コーディネーター	2016年4月～現在に至る
・ 生協理事	2012年5月～現在に至る